

肝疾患診療連携拠点病院 山口大学医学部附属病院 肝疾患センター主催 令和元年度 肝疾患研修会 開催報告

山口大学医学部附属病院
肝疾患センター事務局

山口大学医学部附属病院肝疾患センターでは、山口県肝疾患診療連携拠点病院の事業として、毎年肝疾患診療に携わる方を対象とした、肝疾患研修会を開催しております。

この度、令和元年11月26日（火）にANAクラウンプラザホテル宇部において、令和元年度肝疾患研修会を開催しました。県内医療機関の医師や看護師、保健師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、MSWなど、150名が受講されました。

〔第一部〕「一般講演」

日高 勲 肝疾患センター副センター長の司会のもと、医師・県（行政）・看護師それぞれの立場から、肝疾患診療の現状についてご講演いただきました。

はじめに医師の立場から、日高肝疾患センター副センター長より、C型肝炎に対する最新の抗ウイルス薬について治療成績や治療上の注意事項について講演がありました。また、県内の専門医療機関における院内受診勧奨の現状に関するアンケート調査の結果報告がありました。

次に行政の立場から、山口県健康増進課 古谷主査より、肝癌・重度肝硬変入院医療費助成制度についてスライドやプリントをもとに、入院月数のカウントや入院医療記録票の記載方法、参加者証が交付されるまでの流れについて説明がありました。

最後に看護師の立場から、当院看護部 消化器内科病棟 原野看護師より、肝硬変・肝がん患者の早期症状発見の取り組みについて報告がありました。肝硬変に対する入院時の症状チェックの有用性や肝がんに対する治療開始前と2週間後に症状チェックを実施することにより、新規の副作用の発見が可能だったことや、今後外来でもチェックシートを用いて副作用の早期発見につなげていきたいと発表がありました。

〔第二部〕「特別講演」

坂井田肝疾患センター長の司会のもと、大阪市立大学大学院 肝胆膵病態内科学 榎本 大准教授をお迎えし、「肝炎ゼロに向けて当院での受診勧奨奮戦記」と題して、ご講演いただきました。日本の肝がんの主な原因はウイルス性肝炎（HCV）であり、C型肝炎撲滅に向けた受検・受診・受療への取り組みの紹介がありました。

受検率向上のためには、自治体の肝炎ウイルス検査や職域検診の有効活用、一般市民に向けた啓発活動が重要である。受診率向上のためには、多職種の協力と肝炎医療コーディネーターを活用したフォローアップを試みている。受療率向上のためには、院内・院外の非専門医に対する有効なアプローチを確立し水平展開することが求められると締めくくられました。

この度は、多くの県内医療機関の皆様研修会を受講していただきました。
肝疾患センターでは、これからも医療従事者や市民の方々に向けた研修会を計画していきますので、皆様の参加をお待ちしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

《研修会風景》

